

ふくしまの森林文化調査カード

No.4

県 HP公開の可否 (  可 ・ 否 )

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み	3. 森と技 6. 森の風景
分野(ふりがな)	(分野) 森林からの恵み	(ふりがな) きのみ	
地域独特の呼び方	—	—	
タイトル	縄文中期(約6,000年～5,000年前)の遺跡から出土品から(森からの恵み:採集)		
伝承地域	—		
由来(年代)	縄文時代は森の恵みをたよりにして暮らしており、食糧も森からの恵みにたよっていた		
内容	<p>縄文時代の後期後半に作られたキノコを形取った土製品が各地で見ついている。これは人々がキノコを食料として利用し、また毒キノコから派生する幻覚作用の神秘性を印象づけたものと考えられる。</p> <p>また、多くの遺跡から当時食料としていたと考えられる木の実が集中して出土し、縄文時代に主食であったと考えられる木の実を秋の短い期間に大量に収穫し、処理保管していたことが想定されている。</p> <p>県内では、喜多方市上林遺跡の縄文時代中期の竪穴住居跡からクリや三島町荒屋敷遺跡から縄文晩期のトチの実が多量に出土している。</p>		
大きさ・材質	(大きさ) —	(材質) —	
見頃	—		
交通アクセス	JR新幹線:新白河駅から約4キロ、タクシー10分、バス15分 東北自動車道:白河インターチェンジ下車約20～30分		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	福島県文化財センター白河館・まほろん(Tel:0248-21-0700) 喜多方市教育委員会(Tel:0241-24-3821)		

【フリーフォーマット】

キーワード



縄文時代のキノコ形土製品



現生のトチ・クルミ